

みんなで作る
森ものがたい

2021年3月7日発行 第137号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字松原855-4
油山市民の森管理事務所内
TEL: 092-871-6969
FAX: 092-801-1463
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



<12/13 納会>

	表紙	1
も	活動ノート(12/13, 1/17, 1/24, 2/7, 2/14)	2~4
	特集「アカマツ林幼木調査」	5~6
く	油山のお仕事日記「マニアックなお花見」	7
	「世話役から」(広報)	7
じ	うん・えー会報告(12/5)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



12月13日(日)
納会
9:30~14:30



◆参加者：17名
◆内容：2020年の活動を締めくくる「納会」を行いました。カブトムシの森ではC→B→A地区を順に回り、ポイントごとに振り返りました。皆、生き物や植物が好きなので場所々々に付いた植物を見ながら、植物談義。

その後アカマツ林へ移動し、入口で概要説明を聞き、A地区から順に見て回りました。B地区階段下で昼食の予定でしたが、日当たり、眺めの良いD・E地区の境目付近でブルーシートを広げばしお弁当タイム。お腹が満たされた頃合いを見計らい、今年は何をした、来年は何をしたい等、ひとりずつ順番に語ってもらいました。その後は、アカマツ林とカブトムシの森の現状と今後について、また、どうすれば参加しやすくなるか、会員を増やすために何をしたらいいだろう等々についても語り合いました。

お話が終わった頃、恒例の笛吹童子のオカリナと縦笛の素敵な演奏に合わせ、マスク着用で小声で合唱。前は炊飯棟の中でしたが、開けた明るいアカマツ林で聞いた今年の笛の音は、他所では聞けない素敵な音色でした。

最後のお楽しみは宝物探し。子供たちは、アカマツの幼木が茂るエリアに大人が隠した16個の宝物を探し当て、お土産をもらいました。大人たちは「松葉相撲」のトーナメントで、勝者には大きなプレゼント、参加した全員が小さなプレゼントをもらいました。



大人たちが話に没頭している間、子供たちは、大きな子もちっちゃな子も、みんなで仲良くとても楽しそうにいろんなところに穴を掘って遊びました。森会の子供たちならではの遊んでいる姿がとても頼もしく、活動をしてきてよかったです。

【ふりかえりより】

- ・今日色々な話を聞き、自分がやっている作業の意味がわかった。
- ・作業だけではなくて楽しめる活動も行っていく。森の手入れは必要である。楽しい森とするために皆で考える。

1月17日(日)
カブトムシの森
(楢木づくりと広葉樹伐採)
9:30~15:50

◆参加者：11名
◆内容：参加者も多かったので、作業内容を、チェーンソーを使用するの楢木作りと、懸案だったB地区南側のアラカシの伐採に変更しました。

センター前でのミーティングもすっかり定着。今日の作業についての説明、安全対策・新型コロナ

ウイルス対策の確認をして活動開始。道具の払い出し、準備運動をすませて、カブ森A地区へ向かいました。

楢木づくりは、11月に伐採してこれまで葉枯らしさせていたクヌギの枝葉処理と玉切りを行いました。玉切りはチェーンソーを用いて、90センチ幅に切っていました。ほかのメンバーはみんなでクヌギの枝葉を落とし、川の対岸などに積み上げていきました。旧飼育小屋裏に乱雑に積まれていた枝葉の整理も並行して行いました。



午後、チェーンソー班はアラカシの伐採に取り掛かりました。アラカシはクヌギなどと違って材が固く、手ノコではかなりの重労働になるため、これまでなかなか手を付けられなかったものです。足場の確保が難しい場所だったうえ、幹が凸凹していて難しい作業でしたが、チェーンソーに習熟したベテラン会員が見事に伐倒。倒してみると上部の枝葉は予想以上に大変な量で、樹高も高かったため、材処理に時間を要して活動終了予定時刻を越えてしまいました。

アラカシを伐採したことで、A地区からB地区方面は随分奥まで見通せるようになり、ぐっと明るくなりました。B地区は今後も伐採を進めて、親水地区としての体裁を整えていきます。

楢木作りは一度に多くの材処理が必要となるため、子供たちのす



ばらしい活躍が大きな戦力となりました。あとは2月のシタケ菌駒打ちを待つばかり。伐採したアラカシの材処理は応急処置の状態なので、次回以降に持越しです。

【ふりかえりより】

- 木を切るのがおもしろかったです。
- チェーンソーを使いました。まだまだ訓練が必要と痛感しました。

1月24日(日)

アカマツ林

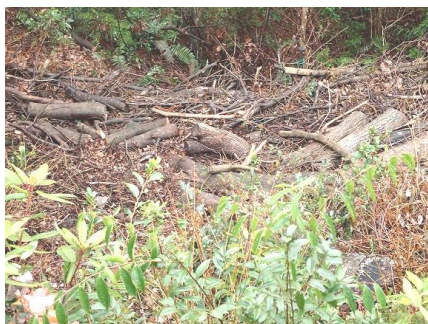
(材処理、広葉樹除伐)

9:30~16:00

◆参加者: 6名

◆内容: 降雪の為に延期した今年1回目のアカマツ林整備活動、振替日のこの日も天候は思わしくなく直前までやきもきました。作業エリアのD・E地区へ移動し、まずは現場を見ながら予定作業の確認を行いました。斜面は前日から雨で滑りやすくなっていました。又あちこちに掘り返され大きくえぐれた場所も。イノシシパワーに驚愕しながらの作業の取り掛かりとなりました。1班は、昨年の作業で除伐し幹と太い枝を林床に残置していた伐倒木の処理を行いました。大きいものだけで3本、うち1本は直径

40cmはあるスタジイの大木。チェーンソーで人が動かせる長さに玉切りした後、鳶口や傾斜を利用しながら材置きヤードに運搬しました。チェーンソーの機械力は絶大ですが、体力・技術力・安全性が要求され、作業の合間の整備も欠かせません。神経を使いながらの体力作業となりました。



もう1班は柏陵高校研修の除伐体験で伐った小径木の処理を行った後、2本の広葉樹をノコで伐倒しました。1本目は下部が徳利型に変形した直径25cm位のタブノキ。谷側に張った枝を切り落して重心を変え、狙った方向に倒しました。2本目もタブノキで直径は34cm、幹は楕円に変形していて高さ15m以上ある高木でした。追い口の切り方で伐倒方向をコントロールする応用編の作業となりましたが、まずは狙った方向に倒せました。年輪を数えると樹齢50年余りの大木でした。

昼時に一時雲行きが怪しくなったものの何とか天気はもち、予定の作業を完了できました。遊歩道から見ると目立っていた伐倒木が片づき、景観も随分良くなりました。ハードな作業でしたが怪我無く終わられて何よりです。

【ふりかえりより】

- 急斜面の上、雨やイノシシに荒らされた地域での伐倒は大変でしたが、何とかうまく倒せて一安心。
- 材処理を楽しみました。雨が降らずに良かったです。

2月7日(日)

アカマツ林(幼木調査、材処理、

ヤード整備および作業道作り)

9:30~15:30

◆参加者: 16名

◆内容: 当日は天候に恵まれ、少し早い春の陽気を感じる絶好の作業日和となりました。

また、3名の体験参加者、数年ぶり参加の会員を含め総勢16名と多くの参加者に恵まれました。このため、幼木調査と並行し、前回伐倒した木の材処理等の整備作業も実施しました。

まずはセンター前で体験参加の方の自己紹介と作業内容の説明、準備運動を行い、道具準備へ。その後アカマツ林へ移動して幼木調査の作業を説明し、調査班2班、材処理班1班の3班に分かれて作業を開始しました。

今回の幼木調査では、A~Fの各地区の中で数本ずつ選定している幼木の生長を記録する作業を中心に行いました。A~C地区の調査を行う班4名とD~F地区の調査班4名、そして実生幼木のマークを担当する子供たち3名に分かれて作業開始しました。

まずはこれまでに選定していた幼木の樹高と樹冠幅の計測、樹勢、半径1mの幼木密度、日照度の記録を実施。選定木の場所を記録した地図が未整備だったこと、また幼木の成長により個体に付けていた識別用タグが目立ちにくくなっていったことから、探すのに手間取る場面もありましたが、なんとか午前中にほぼ全ての測定を終えることができました。午後は整備作業へ数名応援にまわり、残りのメンバーで調査を再開。まず選定木の本数が少なかつ



たB～F地区に1～2本ずつ追加の個体を選定し、上記の樹高等のほか、傾斜測定器を用いて斜面傾斜等の立地条件も記録。

その後、A、D地区の幼木が密集しているエリアで、今後の育成のため劣勢木を中心にノコで間引きを行い、ヤードへ運んで材処理を実施。選定木の周りを中心にシダなどの除去作業を行って調査班の作業は終了しました。

日あたりの良いD、F地区では樹高4mまで成長した個体もあり、以前のように2mの測量ポールで容易に計測とはいかず、斜面やトゲトゲの下草にも阻まれ大変な作業となりました。



幼木調査は今回より活動日が半日から終日となったこと、参加者が多く2班体制で実施できたことから、余裕をもってすべての作業を終了できました。作業後の現地振り返りでは、アカマツ成木、幼木がともに目立つ見晴らしの良いアカマツ林になってきたことを実感しました。

一方、材処理班の4人は午前中にまず、前回の活動でDからC地区にまたがる形で伐倒した15m超のタブノキの20本ほどの枝をチェーンソーで切り落とし、それ以外はヤードに運んで枝切鋏で細断。重量のある幹部分は玉切りしてヤードに運び、土に還す場所に並べ置きました。景観も考えながらそれぞれの材を適切に処理しました。

午後は午前中の4人に加え、調査班からも残りの材処理を応援。材処理終了後、作業道作りを開始しました。DからC地区の斜

面中腹を横断するルートに道をつけ、今後の草刈り作業をしやすくすることが目的です。太い根っここの切断に手こずりながら一番大変な区間が開通しました。今後も楽しみながら全区間の作業道を開通させていきます。

穏やかな天気の中、少し汗ばみながら気持ちの良い作業ができました。

【ふりかえりより】

- ・アカマツの幼木のピンクのしるしをいっばいつけすぎでピンクだらけになりました。たのしかったです。

- ・大きな木も北側は枝がついていなかったり、日あたりの良い場所は枝の広がりがよく全方向に葉がついている等、よく観察できておもしろかったです。

2月14日(日)

カブトムシの森(シイタケ菌駒打ち、草刈り、被災木の伐採) 9:30~15:30

◆参加者：16名

◆内容：これまで自然観察センターの行事として行われてきたシイタケ菌駒打ちが、今年度から森会の活動となり、センターからの依頼で2組の一般参加を受け入れました。一般参加の方々は午後の活動にも体験参加されました。



まずはじめに、体験参加の方4名の紹介があり、その後いつもの通り作業説明、安全対策、新型コロナウイルス対策の確認。準備体操、道具準備の後、久々にリヤカー2台を使用してカブトムシの森・休憩小屋へ移動しました。

到着後、最初の作業は飼育小屋跡付近に積んであった檜木約40本の持ち出し。全員参加のバケツ

リレー方式で持ち上げました。その後、小屋前にブルーシートを敷き、ドリル3台を配置して作業場所を準備。原木栽培について簡単に触れた後、作業の要領を説明して作業を開始しました。

センターで準備していた種駒は600個。標準の材で1本あたり30個程打つので、作れる原木は20本程になります。そこで、まず持ち帰り用を作った上で、森会用の原木を作りました。



午後は、A地区の休憩小屋周辺とC地区で刈払機を使ってのササ刈りを実施。B地区では、台風による被災木の伐採を行いました。

A地区、C地区のササ刈りは、会員2名で精力的に刈ってもらいましたが、時間切れで斜面が少し残りました。

B地区での伐倒作業は、会員の指導のもと、体験参加の方々にノコギリを引いて貰いました。クヌギとは言え直径31cmともなるとなかなか大変でしたが、目標どおりに倒せました。

今年は暖かかったので焚火がなくても大丈夫でした。森会の活動として駒打ちを行うと、日頃の作業の結果採れた材を利用しているというのを実感できたようで、なかなか意義深いものがありました。

【ふりかえりより】

- ・トンカチたのしかった。穴あけるのもたのしかった。
- ・持ち帰り檜木を作りました。大切にぞだてます。
- ・今度こそシイタケが生えてくれればよいと思います。シイタケに良い環境づくりが必要かなと感じています。

特集「アカマツ林幼木調査」

(アカマツ林調査世話役 中嶋)

現在生育しているアカマツ成木の次を担う幼木たちの生育状況を把握して、整備作業の効果を測り、長期的な保全計画に役立てることを目的に、森会では毎年幼木調査を行っています。

今回は、2021年2月7日に行ったA～F各地区幼木のサンプリング調査について報告します。

なお、今回の調査とは別に昨年度まで実施していたB地区でのコドラート調査（地かきの有無による実生幼木の発芽・生長に関する調査）は、4年間実施して一定の成果が得られたことと、調査区画の立地条件などから今後の調査に進展が見込めないことから調査を終了することとなりました。

■今回の調査概要

A～F各地区の中で立地条件の異なる複数の幼木をサンプリング（抽出）しており、それらの樹高や樹勢などを2017年から継続して記録しています。

昨年度までは、整備作業と並行して実施したり、うんえー会後の半日で実施したりしていましたが、調査に十分な人員を充てられず、参加できる会員が限られていたほか、近年は幼木の成長に伴い調査に時間や労力がかかるようになっていたため、今年度から幼木調査単体で活動日を設けて実施することになりました。

これにより、2～3人1組で行っていた調査を今回は4～5人2組で行うことができました。



【樹冠幅の調査の様子】

調査はA～C、D～F地区の2班に分かれて、まずこれまでに選定していた幼木23本について、樹高と樹冠幅（南北方向と東西方向）の計測と、樹勢、半径1m以内の幼木本数、日照度などの記録を行いました。

つぎに、近年整備作業が進んだことで、新たに幼木が出現している箇所が増えてきたこともあり、選定木の本数が少なかったB、C、E、F地区に1～2本ずつ追加の個体を選定しました。

これらは、樹高等のほか、樹齢や土壌厚、地表植生、斜面の傾斜、方位などの立地条件の記録も行いました。

急な斜面を上り下りしながら対象の木を探したり、幼木とはいえ背丈を超えるほどに成長した木の高さや樹冠幅を測定したりするのは大変な作業でしたが、2班で分担できたこともあり、時間内に計29本の対象木の調査を終えることができました。

【調査対象個体数】 (本)

A地区	B地区	C地区	D地区	E地区	F地区	計
6	5 (+2)	5 (+2)	5	4 (+1)	4 (+1)	29 (+6)

()内は今回対象追加個体数

■調査結果等

調査結果の概要は次ページの表のとおりです。

枯死等で消失した個体もなく、樹高は全体平均で昨年度から約50cm伸びていました。

最も樹高が高いものはF地区の樹齢12年の個体で4.5m。昨年から70cmの伸びでした。2mの測量ポール2本伸ばしても足りないほどで、次年度の調査では5mは測れるものを準備したいと思います。

また、日照度を見ると、A～C地区では昨年より日当たりが改善した個体が見られました。この一年でさらに広葉樹の除間伐が進んだことが要因と考えられます。

一方、F地区では日照度の評価が中以下となっており、改善は見られませんでした。F地区の奥側には、まだ常緑樹が一部残っている箇所があるほか、下草刈り等がA～C地区と比べて十分に実施できておらず、対象木周辺の雑草や常緑樹の芽生えによって日当たりが阻害されていることが考えられます。

そのほかに気になった点としては、A、C、E地区で半径1m以内の幼木本数に増加がみられ



たことです。2017年の当初調査時以降、自然淘汰によって減少していくかと思われましたが、整備作業が進み、それ以上に種子の発芽が進んでいるようです。

今回、子どもたちが各地区の実生幼木にテープでマークしてくれましたが、本当に林内至る所で実生幼木がたくさん見られるようになりました。整備作業を長年積み重ねてきたことで幼木、成木ともにアカマツが目立つ林になってきたことを感じました。

なお、今回の調査終了後、A、D地区の幼木が密集しているエリアにおいて、幼木調査対象木を中心に今後残していく木を選定し、劣勢木を中心に間引きを行いました。

次年度以降は、間引きによってより生長が進むことを期待しています。



【実生幼木のマーキング作業】

令和3年サンプリング個体調査結果表

No.	地区	樹齡 (年)	樹勢	地形	斜面 方位	樹高 (m)			幼木密度 (本/r=1m)			日照度			備 考
						前回 (R2年)	今回 (R3年)	差	当初 (H29年)	前回 (R2年)	今回 (R3年)	当初 (H29年)	前回 (R2年)	今回 (R3年)	
1	A	12	良	斜面	E	3.50	3.85	0.35	9	6	6	中	中	中	
2	A	11	良	斜面	SE	1.80	2.40	0.60	5	4	10	中	良	良	
3	A	10	良	斜面	SE	1.75	2.10	0.35	5	0	5	良	良	良	
4	A	12	良	斜面	E	2.55	2.60	0.05	5	4	5	中	中	良	
5	A	9	良	尾根	-	0.90	1.05	0.15	5	1	3	中	中	中	
6	A	10	良	斜面	SE	1.45	2.20	0.75	8	8	20	中	良	良	
7	B	7	良	尾根	SW	0.45	0.70	0.25	3	3	1	中	中	良	
8	B	9	良	尾根	S	1.55	2.35	0.80	3	1	0	良	良	良	
9	B	10	良	尾根	S	1.20	1.60	0.40	4	1	0	中	中	良	
10	B	7	良	尾根	S	-	0.38	-	-	-	2	-	-	良	今回追加
11	B	7	良	斜面	S	-	0.65	-	-	-	1	-	-	中	今回追加
12	C	9	中	斜面	E	1.25	1.70	0.45	1	0	0	中	中	良	
13	C	9	良	斜面	E	1.50	2.00	0.50	3	1	0	中	中	良	
14	C	5	良	斜面	SE	0.85	1.25	0.40	6	6	10	良	良	良	
15	C	5	良	斜面	SE	-	0.85	-	-	-	0	-	-	良	今回追加
16	C	10	良	斜面	E	-	1.75	-	-	-	0	-	-	中	今回追加
17	D	11	劣	尾根	S	3.40	3.70	0.30	2	0	0	良	良	良	
18	D	9	良	斜面	SW	2.50	3.00	0.50	3	0	0	良	良	良	
19	D	-	良	尾根	S	2.80	3.20	0.40	2	0	0	中	中	中	
20	D	11	良	尾根	S	2.75	3.40	0.65	2	1	2	良	良	良	
21	D	12	劣	尾根	S	3.00	4.00	1.00	8	5	4	良	良	良	
22	E	10	良	斜面	SW	1.85	2.30	0.45	7	3	8	中	良	良	
23	E	5	中	斜面	SW	1.10	1.60	0.50	8	3	6	良	中	中	
24	E	-	良	斜面	-	1.10	1.80	0.70	5	2	3	良	良	良	
25	E	4	良	斜面	S	-	0.60	-	-	-	2	-	-	良	今回追加
26	F	11	劣	尾根	W	1.10	1.30	0.20	4	4	5	悪	悪	悪	
27	F	12	良	尾根	S	3.80	4.50	0.70	-	2	2	-	中	中	
28	F	-	良	斜面	-	1.60	2.40	0.80	4	2	2	中	中	中	
29	F	4	良	尾根	-	-	0.95	-	-	-	1	-	-	中	今回追加

油山のお仕事日記

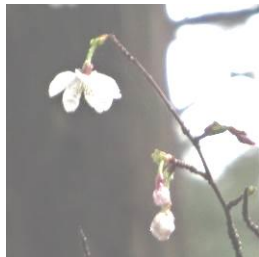
「マニアックなお花見」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

3月後半はお花見シーズン。市民の森の桜を眺めていると、咲くタイミングや花の色味が様々あることに気づきます。実は昨年、油山市民の森の桜の種類を調査したので、その中でマニアックなやつをご紹介します。探してみてくださいね。

【豆桜 マメザクラ】

施設内に1本だけ確認しているレアものです。道しるべ番号28番を東に下ると右手にあります。花は小ぶりで華奢な感じ。3月中旬頃他の桜に先駆けて花を開きます。葉っぱが重鋸歯という特徴ある形なので、花より葉っぱを見た方がわかりやすいです。



【大山桜 オオヤマザクラ】

こちらも施設内に1本しか確認できないレアキャラ。カブトムシの森C地区上の管理道路沿いにあります。ヤマザクラよりも花が大きく、ピンク色が濃いのでわかりやすいです。日当たりのせいか、ひょろりと傾いて生えています。力強い名前に反して、守ってやりたい感じの個体です。



【筑紫山桜 ツクシヤマザクラ】

花と同時に展開する葉っぱの色が、ヤマザクラは赤っぽいのにに対して、こちらは黄色っぽいです。第一駐車場上の噴水の脇や、ボランティアルームの北側正面など、わりとあちこちに見られます。花はヤマザクラより2割増し大振り。



現在のところ、調査により全部で11種類が判明しました。正体不明の個体も一株…。今年は多様な桜の種類を探求するマニアックお花見なんて、どうでしょう。

「世話役から」

広報担当 川上 寛

私は、山登りが好きだったため、油山の森林保全活動をしている森会に興味を持ち、2006年の活動説明会に参加して入会しました。森林保全や植物や昆虫に特に詳しいわけでもなく広報担当をやることにしました。広報のセミプロのような前任者から森ものがたりの作り方を受け継いで、なんとか森ものがたりを作成してきました。2007年72号から今回2021年137号まで14年間で合計66号を広報担当として発行しました。森ものがたりの表題は「みんなでつくる 森ものがたり」となっています。森ものがたりの活動報告は各活動世話役、特集は調査世話役などが分析まで含めて書いています。そのほか、コラム、うん・えー会報告、活動予定とそれぞれ担当者が書き、森ものがたりをみんなでつくることになっています。このため、広報担当は、基本、ワードで原稿をもらいコピーで貼り付け編集しています。作り方としては、発行の約2ヶ月前に全体構成を決め、原稿依頼をします。原稿締め切りとなると、忙しくて原稿を出せない人、完全に忘れてる人などへ、鬼の催促！！そして集まった原稿を広報部員中心で校正します。漢字の誤り、表現の修正、個人名、希少生物を載せないなど会としての考え方もあり、難しい判断も必要です。その後、印刷。数年前までは、原稿からの軽印刷で大変でしたが、今は、ワードからの直接プリントで、ずいぶん楽になりました。一方、最近では、紙媒体より、ホームページを見て入会する人も多く、フェイスブック、ホームページで、毎回、活動報告や活動予定を広報しています。紙の広報紙の配布数を減らし、今後さらに、ネットでの広報に力を入れたいと思います。今はやりのインスタなど新しい広報手段も必要でないかと検討しています。広報部員に、お子さんが小さく、活動にはあまり参加できないが、編集をしてくださる会員も加わっていただきました。広報の仕事は、ほとんど家で作業ができます。森会広報部は常に部員募集中です。皆様、広報へのご参加、ご協力よろしくお願ひします。



森会ホームページ (<http://www.morikai.org/>)

うん・え一会報告

2019年12月5日(土) 9:30~12:00

出席者 12名

1 役割決定、資料確認

2 9~12月活動報告(詳細は会報第136号参照)

- ・9/12(土) うん・え一会、備品管理
- ・9/27(日) 安全講習会→参加者が多く盛会だった。
- ・10/4(日) アカマツ林作業・草刈
- ・10/17(土) カブ森作業・草刈、植生調査→ニガクサが出現した
- ・11/7(土) カブ森作業 クヌギの伐採→参加者4名だったが頑張って成果大だった。
- ・11/21(土) アカマツ林作業・草刈、伐倒→刈払機2台投入、効果大だった。
- ・12/5(土) うん・え一会、特別活動・アカマツ林作業・材処理、作業道整備→両作業とも捗り、見違えるようになった。

3 12~3月 活動予定

- ・12/13(日) 納会・アカマツ林での柏陵高校研修準備
- ・1/10(日) アカマツ林作業
- ・1/17(日) カブ森作業
- ・2/7(日) アカマツ林幼木調査
- ・2/14(日) カブ森作業・椎茸コマ打ち→体験希望5家族20名募集を検討する
- ・3/7(日) 総会(年度末うん・え一会)
- ・3/21(日) アカマツ林作業

4 対外支援活動予定

- 1/8(金) 柏陵高校環境科学コース油山自然研修

5 その他

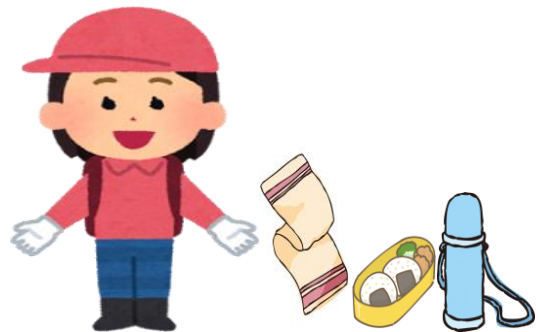
- 5-1 予算消化状況報告→助成金を使える物を確認する。→年度末までに必要なものは購入する。
- 5-2 世話役活動の振り返り提出依頼→原稿を世話役宛 ML にて送信します。→締切厳守-2021年1/22(金)
- 5-3 市民の森通行証について(小川)→ゲートにて車を止め、係員にはっきり見せてから入場する事。→センターからも注意喚起のメールを発信します。
- 5-4 会員状況→12/5現在 33所帯 53名。
- 5-5 2021年度活動項目について→例年通り、総会(年度末うん・え一会 3/7)にて決定するので、希望があれば、内容を詰めておくこと。
 - ①草木染め一時期、副世話役を決める事
 - ②草だんごーしてみたい
 - ③特別活動の範囲で、事前調整のうえ、新しい活動を組み入れることも可とする。

6 発送作業

- ①会報第136号

活動予定(2021年3月)

- ★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行
〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行
活動時間: 9:30集合 ~ 15:30解散
 - ★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。
 - ★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。
 - ★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。
- 必要な持ち物は
いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。



3月21日(日) アカマツ林作業

アカマツ林のD・E地区で広葉樹の伐採及び作業道補修を行います。

- ◆新年度の活動予定は今後、HPでお知らせします。
(<http://www.morikai.org/>)

会員登録更新手続きのご案内

保険手続きの関係上、更新手続きは、3/23が締切りです。お忘れになりませんように!!



油山自然観察の森 森を育てる会
会報『森ものがたり』 季刊
編集担当: 川上、西岡、鎌田、静間、松雪
